

## ■（166）被災地の子育てママに新たな苦悩

被災した岩手県・浪板海岸を見下ろす高台に建つ「森の図書館」を2年ぶりに訪れた。庭師が自宅の庭に石を積み上げて造った小さな建物で、前回訪ねたときは完成間近だった。今は本が並び、庭を題材にした絵本「かぜのでんわ」の原画展が開催中で、見学者が訪れている。

被災地で子どもが本を読む場所もないと心配した庭師の活動だ。朗読会などを通じ、親子が緑豊かな庭で本を楽しむ時間を提供している。そんな被災地の親子の新たな苦悩に触れた。

勤務する釜石市には今春、大型ショッピングセンターが開業し、被災会社も徐々に再開してきた。働く場は確実に増えており、母親も働きたい。だが、子どもを預かってくれる保育所が満杯で、待機児童が発生しているのだ。子育て支援のNPO代表は嘆く。「被災地で待機児童なんて……。生活再建に向けて女性も働きたいのに」。行政も、何とかしなければと動き始めた。暮らしや経済の再建とともに、子育て支援が急務となっている。

記事を書くだけでなく、少しでも被災地の子育ての役に立てればいい、と勝手に思い、森の図書館に絵本を一冊寄贈した。地元の子が読む姿を想像するだけで、少しうれしい。

（山）